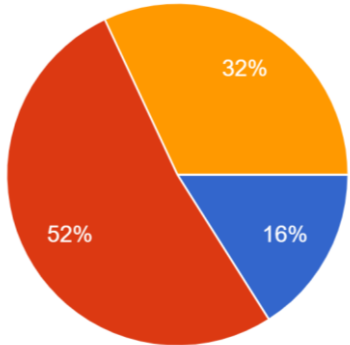
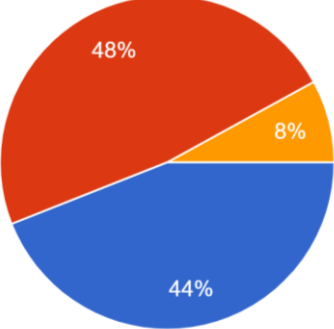
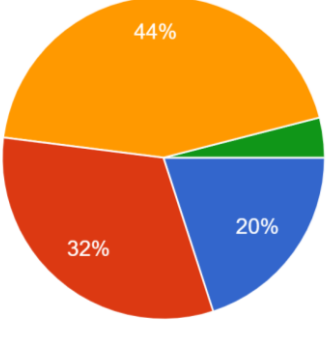


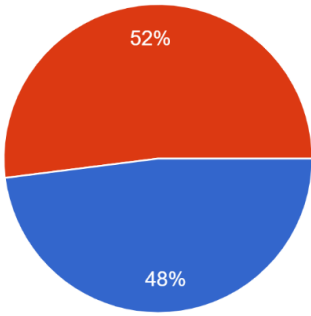
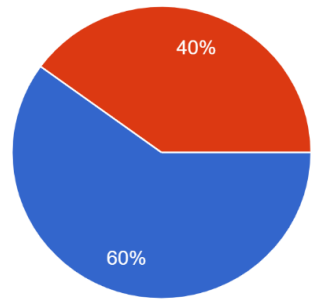
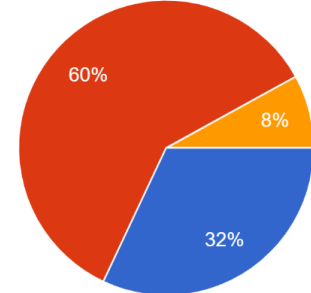
【分析方法】

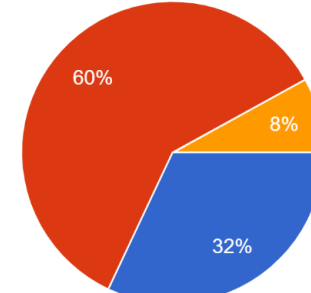
4件法 (A:達成, B:ほぼ達成, C:あまり達成されていない, D:達成されていない) でアンケートを実施した。評価された項目の割合を円グラフで示すとともに, 学校経営努力点に関しては, 参考としてAから順に4点, 3点, 2点, 1点と得点化し, それぞれ平均値を算出した。保護者アンケートについては, 前年度から改善された項目などを把握するため, 年次比較も合わせて行う。回収率は, 職員が 100%, 保護者が 93% (54回収/58 配付) であった。

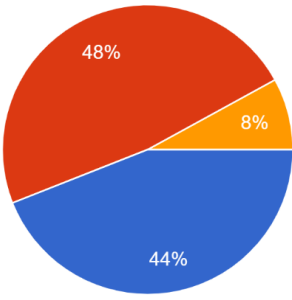
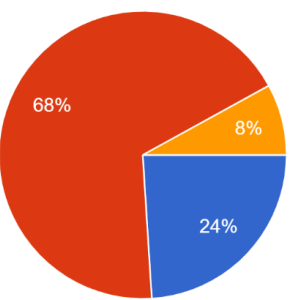
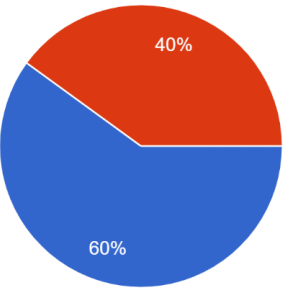
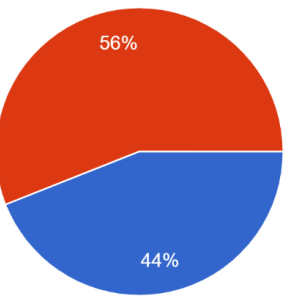
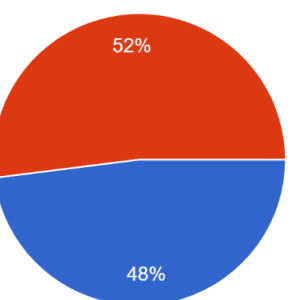
I 学校経営努力点

1 評価結果 (数字は平均値)

(1) 一人一人の教育的ニーズを的確に把握し, 適切な指導や必要な支援を充実する。		
<p>ア PDCA サイクルに基づいた個別の教育支援計画及び個別の指導計画の様式の見直しや活用による, 指導・支援の在り方を再確認する。</p>	<p>● A: 達成 ● B: ほぼ達成 ● C: あまり達成されていない ● D: 達成されていない (未取組)</p> 	<p>点数化による平均値 上: 今年度 下: 昨年度</p> <p>2. 8 3. 1</p>
<p>イ 授業ミーティングを活用して, 資質・能力の育成の視点による授業改善を行う。</p>		<p>3. 4 3. 0</p>
<p>ウ GIGA スクール構想に基づき, 特別支援教育の視点も踏まえた ICT を活用に努め, 実践事例集を蓄積する。(一部新規内容)</p>		<p>2. 7 2. 5</p>

(2) 児童生徒の健康や校内外の安全を確保し、安全指導や生徒指導、保健指導を充実する。												
<p>ア 児童生徒の生命を守り育む視点に立ち、一人一人の実態に応じた安全指導や生徒指導、保健指導を徹底する。</p>	<p>● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない（未取組）</p>	<p>点数化による平均値 上：今年度 下：昨年度</p>										
	 <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>A (達成)</td><td>48%</td></tr> <tr><td>B (ほぼ達成)</td><td>52%</td></tr> <tr><td>C (あまり達成されていない)</td><td>0%</td></tr> <tr><td>D (達成されていない)</td><td>0%</td></tr> </table>	Category	Percentage	A (達成)	48%	B (ほぼ達成)	52%	C (あまり達成されていない)	0%	D (達成されていない)	0%	<p>3. 5 3. 6</p>
Category	Percentage											
A (達成)	48%											
B (ほぼ達成)	52%											
C (あまり達成されていない)	0%											
D (達成されていない)	0%											
<p>イ 危機管理マニュアルの更新を行い、感染症や事故や災害等に関する報告・連絡・相談・確認システムを徹底し、児童生徒の生命・健康を守るための迅速できめ細やかな対応を行う。</p>	 <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>A (達成)</td><td>60%</td></tr> <tr><td>B (ほぼ達成)</td><td>40%</td></tr> <tr><td>C (あまり達成されていない)</td><td>0%</td></tr> <tr><td>D (達成されていない)</td><td>0%</td></tr> </table>	Category	Percentage	A (達成)	60%	B (ほぼ達成)	40%	C (あまり達成されていない)	0%	D (達成されていない)	0%	<p>3. 6 3. 4</p>
Category	Percentage											
A (達成)	60%											
B (ほぼ達成)	40%											
C (あまり達成されていない)	0%											
D (達成されていない)	0%											
<p>ウ ヒヤリハット事案や安全点検に基づいた教育環境の整備を行う。</p>	 <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>A (達成)</td><td>32%</td></tr> <tr><td>B (ほぼ達成)</td><td>60%</td></tr> <tr><td>C (あまり達成されていない)</td><td>8%</td></tr> <tr><td>D (達成されていない)</td><td>0%</td></tr> </table>	Category	Percentage	A (達成)	32%	B (ほぼ達成)	60%	C (あまり達成されていない)	8%	D (達成されていない)	0%	<p>3. 2 3. 2</p>
Category	Percentage											
A (達成)	32%											
B (ほぼ達成)	60%											
C (あまり達成されていない)	8%											
D (達成されていない)	0%											

(3) 附属学校の役割や機能を生かし大学との共同研究を深め、専門性や資質の向上を図る												
<p>ア 大学・学部の特設支援教育、教科教育等の教員との共同研究や県内外の特設支援教育関係者と連携した研究を推進するとともに、研究推進の効率化を図る。</p>	<p>● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない（未取組）</p>	<p>点数化による平均値 上：今年度 下：昨年度</p>										
	 <table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>A (達成)</td><td>32%</td></tr> <tr><td>B (ほぼ達成)</td><td>60%</td></tr> <tr><td>C (あまり達成されていない)</td><td>8%</td></tr> <tr><td>D (達成されていない)</td><td>0%</td></tr> </table>	Category	Percentage	A (達成)	32%	B (ほぼ達成)	60%	C (あまり達成されていない)	8%	D (達成されていない)	0%	<p>3. 2 3. 2</p>
Category	Percentage											
A (達成)	32%											
B (ほぼ達成)	60%											
C (あまり達成されていない)	8%											
D (達成されていない)	0%											

<p>イ 研究テーマに基づいた実践研究により専門性を深めるとともに、教員相互に資質向上に努める</p>		<p>3. 4 2. 8</p>
<p>ウ 大学・学部と連携し、県や地域のニーズを把握し、還元性の高い実践的研究を推進する。</p>		<p>3. 2 2. 7</p>
<p>エ 服務に関する研修等を通して、一人一人がハラスメントやコンプライアンスへの意識を高め、信頼される学校づくりに取り組む。(新規内容)</p>		<p>3. 6</p>
<p>(4) 力量のある教員を養成するため、大学・学部と連携して教育実習の一層の充実を図る。</p>		
<p>ア 大学の第4期中期計画と連動しながら実習生指導の重点を整理し、授業づくりや児童生徒への指導に関する実践力の養成及び指導教員としての指導力の向上に努める。</p>	<p>● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない（未取組）</p> 	<p>点数化による 平均値 上：今年度 下：昨年度</p> <p>3. 4 3. 4</p>
<p>イ 介護等体験、高校免許取得者の実習、採用前実習等の企画・運営及び教職大学院の探究課題に基づく実践演習の充実を全校態勢で進める。</p>		<p>3. 5 3. 4</p>

(5) 児童生徒・保護者・地域と共にあり、責任を果たす開かれた学校の創造をめざす												
<p>ア 児童生徒の学習環境の向上と附属学校としての責任を果たすため、施設設備、情報機器、教材・教具等の整備・充実を図る。</p>	<p>● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない（未取組）</p>	<p>点数化による 平均値 上：今年度 下：昨年度</p>										
	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>A (達成)</td><td>24%</td></tr> <tr><td>B (ほぼ達成)</td><td>64%</td></tr> <tr><td>C (あまり達成されていない)</td><td>12%</td></tr> <tr><td>D (達成されていない)</td><td>0%</td></tr> </table>	Category	Percentage	A (達成)	24%	B (ほぼ達成)	64%	C (あまり達成されていない)	12%	D (達成されていない)	0%	<p>3. 1 3. 1</p>
Category	Percentage											
A (達成)	24%											
B (ほぼ達成)	64%											
C (あまり達成されていない)	12%											
D (達成されていない)	0%											
<p>イ 学校見学会や体験学習，ホームページ，広報紙などを通じて学校の機能を広く発信するとともに，児童生徒の余暇活動の充実に向けた積極的な支援を行う。</p>	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>A (達成)</td><td>28%</td></tr> <tr><td>B (ほぼ達成)</td><td>68%</td></tr> <tr><td>C (あまり達成されていない)</td><td>4%</td></tr> <tr><td>D (達成されていない)</td><td>0%</td></tr> </table>	Category	Percentage	A (達成)	28%	B (ほぼ達成)	68%	C (あまり達成されていない)	4%	D (達成されていない)	0%	<p>3. 2 3. 1</p>
Category	Percentage											
A (達成)	28%											
B (ほぼ達成)	68%											
C (あまり達成されていない)	4%											
D (達成されていない)	0%											
<p>ウ 児童生徒が主体となつて行う，地域貢献活動の可能性について検討し，試行する。</p>	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>A (達成)</td><td>4%</td></tr> <tr><td>B (ほぼ達成)</td><td>36%</td></tr> <tr><td>C (あまり達成されていない)</td><td>48%</td></tr> <tr><td>D (達成されていない)</td><td>12%</td></tr> </table>	Category	Percentage	A (達成)	4%	B (ほぼ達成)	36%	C (あまり達成されていない)	48%	D (達成されていない)	12%	<p>2. 3 2. 1</p>
Category	Percentage											
A (達成)	4%											
B (ほぼ達成)	36%											
C (あまり達成されていない)	48%											
D (達成されていない)	12%											
<p>エ 全職員で業務の削減と改善に取り組み，働き方改革を推進する。(昨年度検討一部変更)</p>	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>A (達成)</td><td>4%</td></tr> <tr><td>B (ほぼ達成)</td><td>36%</td></tr> <tr><td>C (あまり達成されていない)</td><td>48%</td></tr> <tr><td>D (達成されていない)</td><td>12%</td></tr> </table>	Category	Percentage	A (達成)	4%	B (ほぼ達成)	36%	C (あまり達成されていない)	48%	D (達成されていない)	12%	<p>2. 8 2. 6</p>
Category	Percentage											
A (達成)	4%											
B (ほぼ達成)	36%											
C (あまり達成されていない)	48%											
D (達成されていない)	12%											

(6) 教育相談等の支援体制の充実を図り、センター的機能を果たすための支援を継続する。								
<p>ア 幼稚園、保育所・小・中・高等学校在籍の、特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒のニーズに応じた支援を行うとともに、就学前教育相談の充実を図る。</p>	<p>● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない（未取組）</p>	<p>点数化による 平均値 上：今年度 下：昨年度</p>						
	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>A (達成)</td><td>36%</td></tr> <tr><td>B (ほぼ達成)</td><td>64%</td></tr> </table>	Category	Percentage	A (達成)	36%	B (ほぼ達成)	64%	<p>3. 4 3. 4</p>
Category	Percentage							
A (達成)	36%							
B (ほぼ達成)	64%							
<p>イ 附属学校園特別支援教育推進研究委員会の機能化を図り、学部・附属学校園と連携した巡回相談や現職教員研修、スキルアップセミナーの実践等を通し、特別支援教育の一層の推進を図る。</p>	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>A (達成)</td><td>36%</td></tr> <tr><td>B (ほぼ達成)</td><td>64%</td></tr> </table>	Category	Percentage	A (達成)	36%	B (ほぼ達成)	64%	<p>3. 4 3. 1</p>
Category	Percentage							
A (達成)	36%							
B (ほぼ達成)	64%							

2 考察（学校経営努力点に関する内容）

- (1) 教育的ニーズの的確な把握と指導及び支援の充実において、授業ミーティングの活用に関しては、92%の割合で達成、ほぼ達成の評価であった。学校研究のテーマである授業づくりと関連し、資質・能力の育成の視点による授業改善に取り組んだことが高い評価につながったと考える。一方、個別の教育支援計画と個別の指導計画の活用に関しては、32%の割合で「あまり達成されていない」と評価している。自由記述の内容から考察すると新書式に移行して2年間の取組において、各教科等の何を学ばせたいのかという指導内容が明確になった反面、計画や評価の記入に時間を要し、新書式での計画的な運用において、職員間で差異が生じていることが伺える。特に、個別の指導計画の活用の在り方においては、年度初めに開かれる共通理解の会の資料内容等の再確認や年度途中で学部会において、記載内容の共通理解の機会を設定するなど、個別の指導計画の計画的な作成と活用に取り組む必要がある。GIGA スクール構想に基づく ICT 活用に関しては、「達成及びほぼ達成」の評価と「あまり達成されていない、達成されていない」という評価が約半々という結果であった。授業におけるタブレット端末等の活用や職員の会議等のオンライン形式による実施で ICT 活用が進んでいることを各々の教員が感じているが、「実践事例集」の蓄積に具体的なイメージをもてていなかったことが考えられる。今後は、GIGA スクール構想という視点で、ICT 活用に継続して取り組み、実践を蓄積し、長期的な視点で事例集等を提案していくことも必要であると考え。
- (2) 児童生徒の安全指導・生活指導・保健指導に関しては、三つの努力点全て、92%以上で「達成及びほぼ達成」の高い評価であった。今年度も昨年度に引き続き、感染症対策を常に考慮しながら、児童生徒が学校生活を送るために何度も職員間で協議した結果が反映されたと考える。しかし、ヒヤリハット事案や安全点検においては、わずかではあるが「あまり達成されていない」と評価している職員もいる。自由記述の意見から判断すると、「安全点検を全員で実施することがなくなった。」など、安全点検の実施の在り方に意見が述べられている。年度当初の4月は、係から期日に放送が入り、一斉実施を行っていたが、その後は各職員に委ねられている部分がある。児童生徒の命を守る視点からも、今後も継続して、危機管理マニュアルの整備とヒヤリハットの内容の共通理解、毎月の安全点検の確実な実施など職員間の共通理解を図って行う必要があると考える。
- (3) 大学との共同研究や実践研究に関しては、四つの努力点全てにおいて、92%以上で「達成及びほぼ達成」と高い評価であった。この2か年、子どもの「深い学び」の実現に向けた授業づくりの学校研究のもと、各自が

授業ミーティングや学部における授業研究会などに取り組み、今年度は研究のまとめとして、オンライン形式による公開研究会を実施したことが高い評価につながったと考える。しかし、一部大学との連携の在り方や学校研究に対する職員の意見の少なさ、研究のまとめの方向性の不透明さなどを課題として挙げている職員もおり、今後の具体的な改善点を明確にし、実施していく必要がある。

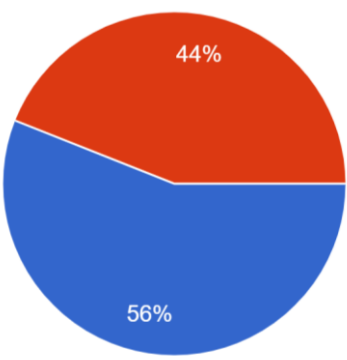
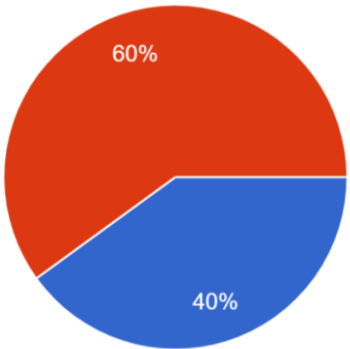
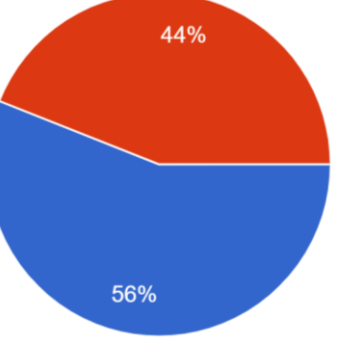
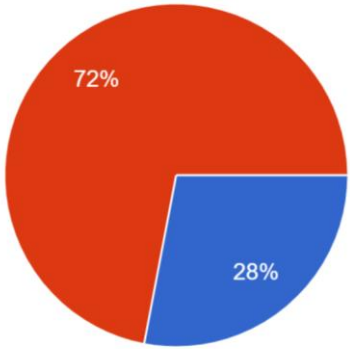
- (4) 教育実習に関しては、二項目ともに「達成及びほぼ達成」と評価しており、高い評価であった。本校の使命の一つである教育実習校としての役割を十分果たしていると考え。今年度も昨年度同様、教育学部と幾度と感染症対策を協議し、実施可能な教育実習の形態を模索しながら教育実習を行ってきた。今後ますますニーズが増えてくると予測される特別支援学校教員免許の取得希望者に応じた教育実習受入体制や教職院大学院実践実習の在り方など、教育学部と連携して取り組んでいく必要がある。
- (5) 地域に開かれた学校という視点では、項目によって評価のばらつきが見られた。学校見学会や体験学習に関しては、9割以上の教員が達成及びほぼ達成と評価している。今後も、ホームページ等を活用して教育活動等を広く発信していき、地域のニーズに応じていきたい。アの施設設備、情報機器、教材・教具の整備・充実に関しては、徐々に施設設備を整えつつあり、昨年度同様9割近い職員が「達成、ほぼ達成」と評価している。一方、項目ウの「児童生徒が主体になって行う地域貢献活動の可能性について検討し試行する」ことに関しては、60%の教員が「あまり達成されていない又は達成されていない」と評価している。昨年度と同様の傾向であり、感染症予防の観点から地域に出掛ける活動が一部制限されたことと具体的この活動を地域貢献活動と位置付けているのか明確になっていなかったことが背景にあると考える。エの働き方改革の推進に関しては、6割の教員が「あまり達成されていない又は達成されていない」と評価している。感染症対策のために例年と異なる対応が必要であり計画の見直しや改善、副案の設定等業務が増えたことが背景にあると考えられる。過去に取り組んだ「ふとくR&Bプラン」を参考にしつつ、今後は、職員各自で掲げる業務改善をもとに取り組んでもよいのではないだろうか。
- (6) 教育相談等の充実に関しては、すべての教員が「達成及びほぼ達成」と評価していた。項目イの附属学校園特別支援教育推進研究委員会の機能化やスキルアップセミナーの充実に関しては、ほとんどの教員が達成及びほぼ達成と評価している。自由記述には、スキルアップセミナーの参加者の拡大を求める意見が挙がっていた。

Ⅱ 校務分掌活動

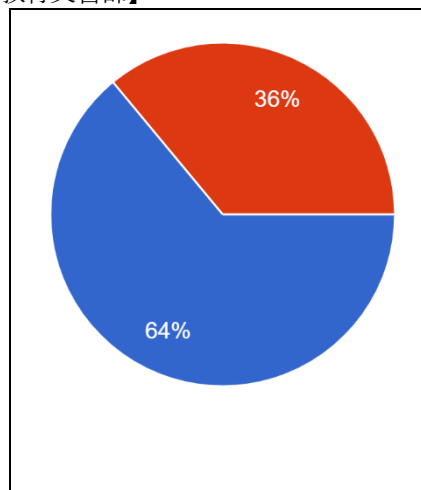
1 評価結果

- A : 達成
- B : ほぼ達成
- C : あまり達成されていない
- D : 達成されていない (未取組)

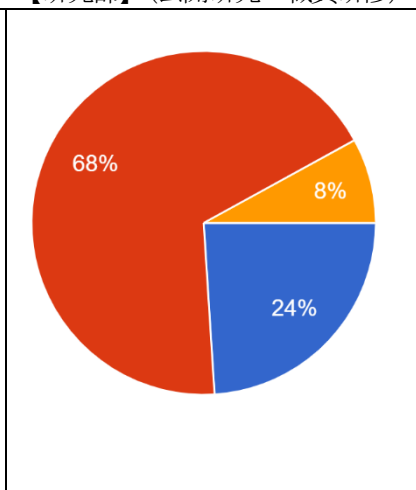
【総務部】

①教務・教育課程		③交流・人権同和教育	
②教科用図書・公簿		④情報・視聴覚	

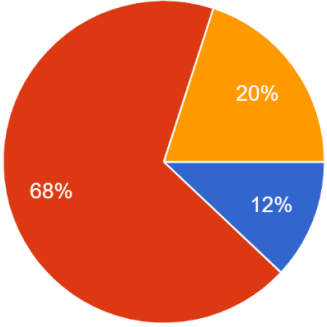
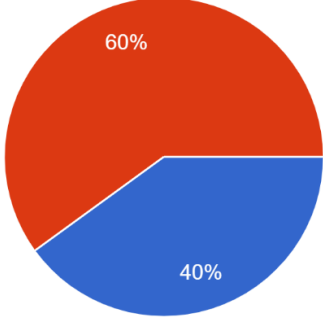
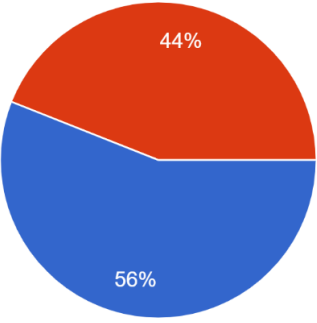
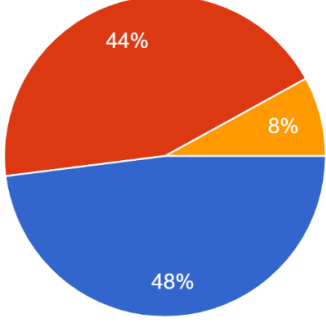
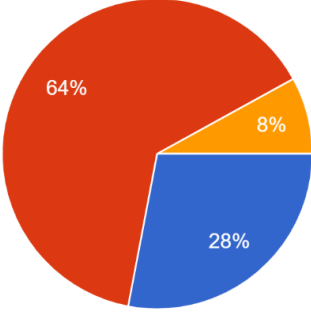
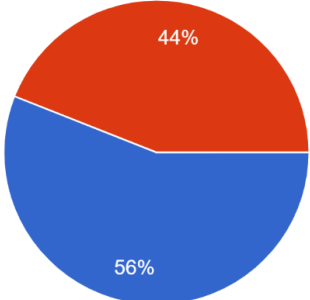
【教育実習部】



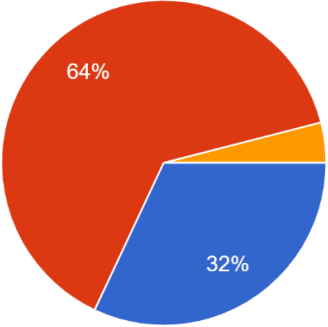
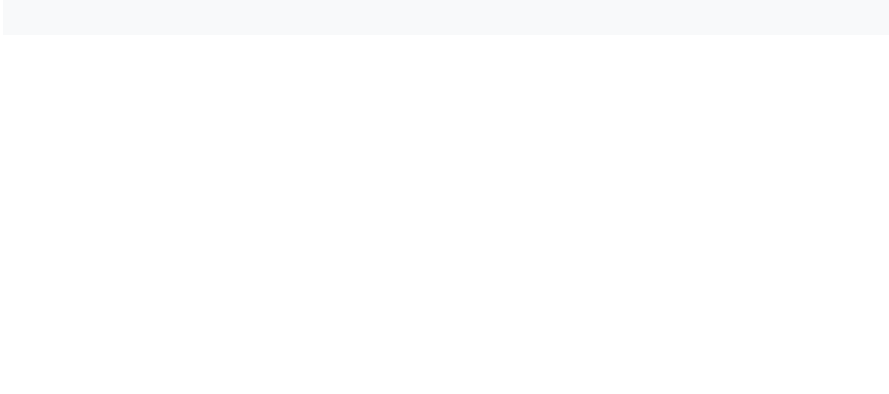
【研究部】 (公開研究・職員研修)



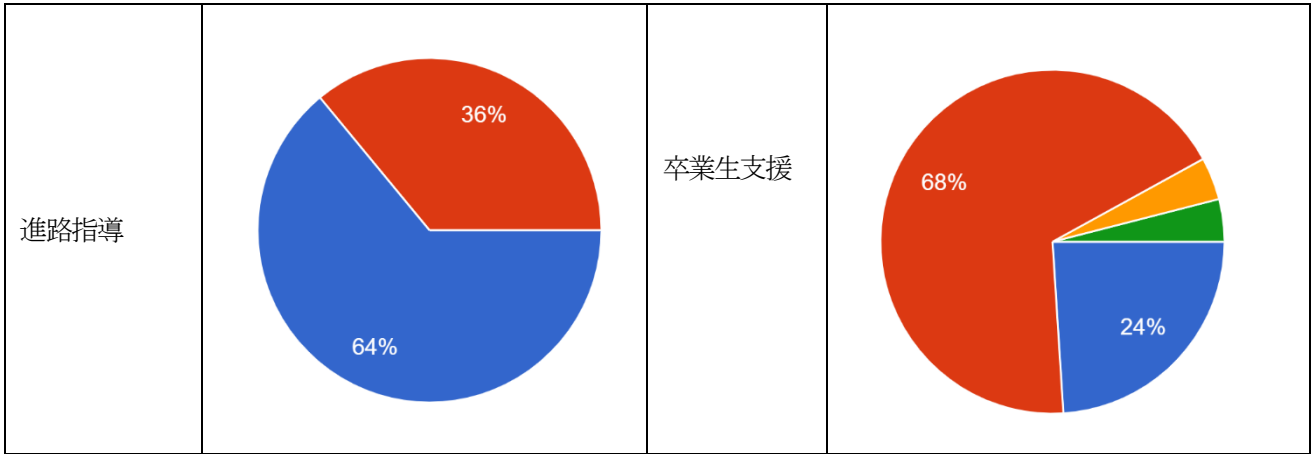
【支援部】

<p>校内支援① 【個別の教育支援計画・個別の指導計画】</p>		<p>校内支援② 【特別支援教育推進委員会】</p>	
<p>校外支援① 【附属学校園支援】</p>		<p>校外支援② 【早期教育相談等】</p>	
<p>校外支援③ 【小中学校等支援・スキルアップセミナー】</p>		<p>校外支援④ 【入学選考委員会】</p>	

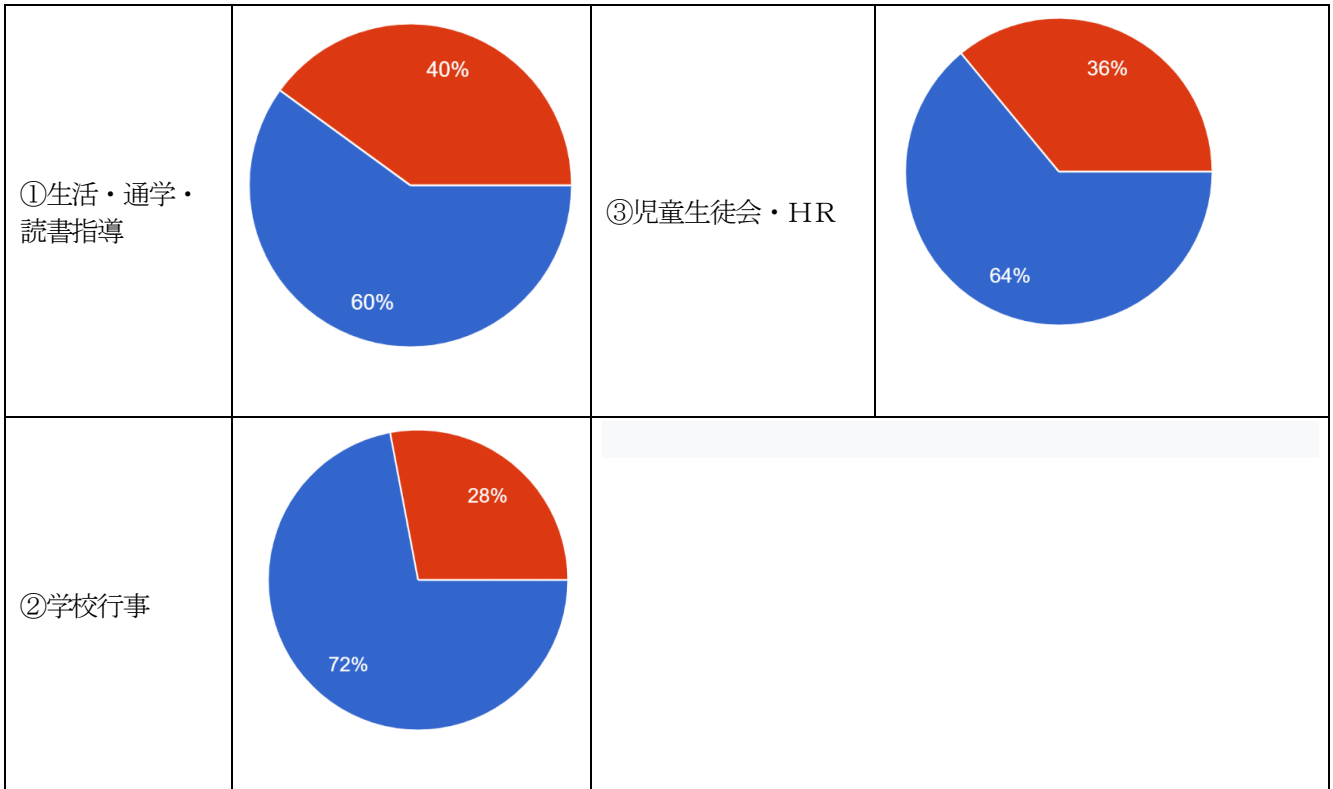
【自立活動部】

	
---	--

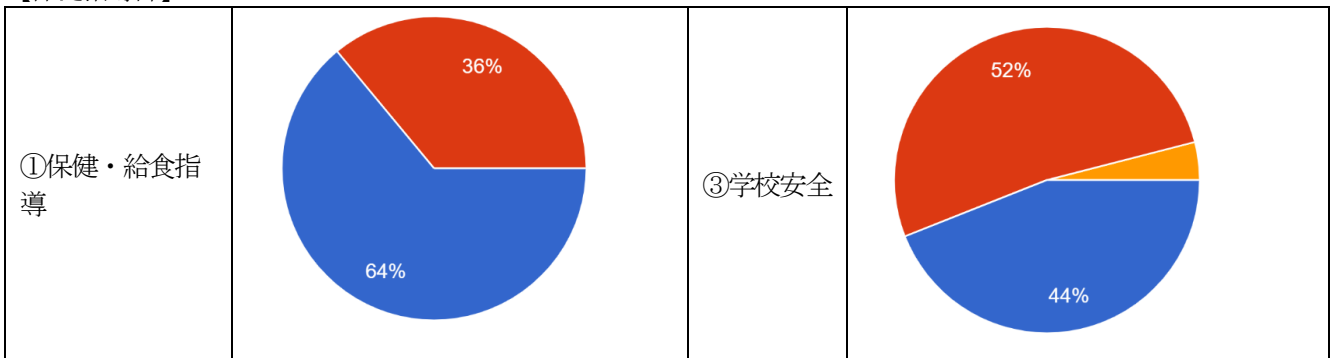
【進路指導部】

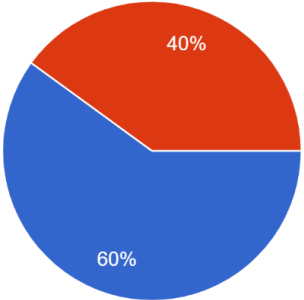
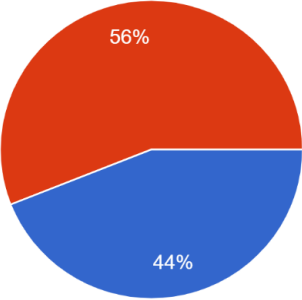


【生徒指導部】

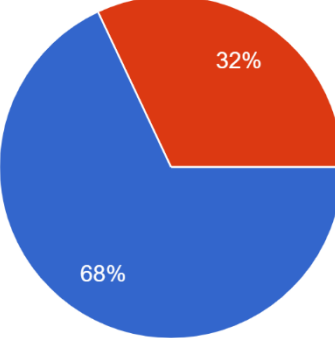
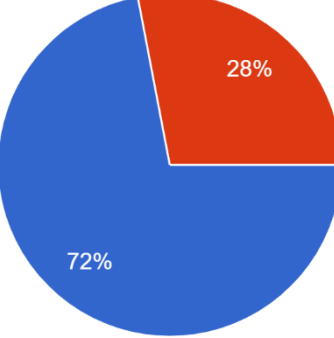


【保健指導部】

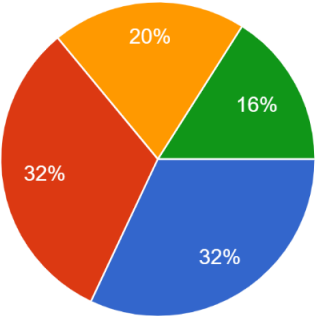
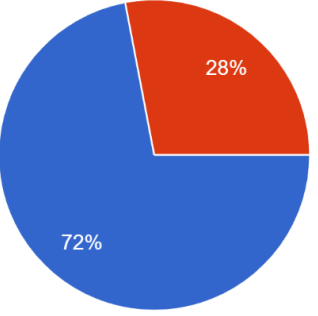
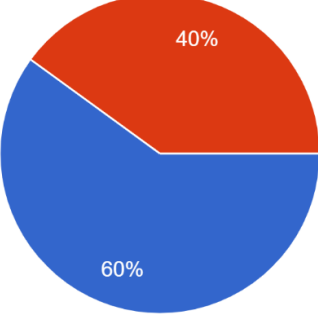


②体育指導		④環境整備	
-------	---	-------	---

【渉外部】

広報・渉外		PTA	
-------	---	-----	---

【分掌・その他】

一心会・明伸会		教職大学院	
学校評価委員会			

2 考察（校務分掌活動に関する内容）

- (1) **総務部**の四つの分掌いずれにおいても、ほぼ、「達成」、「ほぼ達成」の評価を得ている。情報・視聴覚に関しては、GIGAスクール構想の実現に向けて、機器の整備面の充実が進んでいるが、情報機器の故障等への対応は委託業務ができないか等の意見が出ている。
- (2) **教育実習部**について、全教員が「達成」、「ほぼ達成」と高く評価している。附属学校の使命である教育実習の充実とその役割を果たしていると言える。次年度は、今年度、職員間で検討した、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びにむかう力、人間性等」の三つの観点別評価による目標設定の在り方と学習指導案の書き方等を共通理解し、教育実習生に指導していく必要がある。
- (3) **研究部**について 92%の割合で「達成」、「ほぼ達成」と高く評価している。今年度は、特に深い学びに焦点を当て、授業づくりの実践研究のまとめとして公開研究会をオンライン形式で行った。今後は、2か年の研究のまとめを行い、次年度以降の学校研究のテーマ設定を見据え、早い段階から課題の集約を行い、次年度以降の研究を計画的に進めていく必要があると考える。
- (4) **支援部**では、校内支援②の特別支援教育推進委員会は、達成及びほぼ達成と評価している一方、校内支援①の個別の教育支援計画及び個別の指導計画の運用に関する業務内容に関しては、20%の割合で「あまり達成されていない」と評価している。これは、学校経営努力点（1）ーアと同じ傾向にあり、相関があると言える。今後は、個別の指導計画の計画的かつ具体的な運用方法を提案し実施していくことで、新書式を生かした運用ができるのではないかと考える。校外支援は、四つの業務いずれも高い割合で「達成」、「ほぼ達成」と評価している。少ない割合で達成されていないと評価している職員がいるが、感染症予防の観点で実施できなかった業務内容があったことが背景にあると考える。
- (5) **自立活動部**では、96%の教員が達成、ほぼ達成と評価している。夏季休業中には、教育学部の片岡先生による職員研修を行い、新版K式発達検査の実際や結果を通して、子どもの見取り方等について具体的な研修が実施できた。自由記述には、自立活動の個別の指導計画の書式の検討もしくは共通理解、様々な発達検査や知能検査の活用など、今後検討していく必要がある意見が挙げられていた。
- (6) **進路指導部**については、進路指導と卒業生支援いずれも高い評価を得ているが、アフターケアに関して、情報共有が欲しい等、意見が挙がっているので、夏の進路に関する研修会等で事例検討として情報共有してもよいのではないかと考える。卒業生クラブは、卒業後3年間までの卒業生の余暇活動の充実に向けて、2か月に1回程度活動を企画・実施している。今年度は、感染症対策のため、実施できた回数が少なかったが、全教員が分担して活動支援に当たっている。
- (7) **生徒指導部**では、生活・読書指導、学校行事、児童生徒会のいずれも高い評価を得ている。学校行事にあたっては、今後も先の見通しが見えないが、過去2か年の取組を基に、新型コロナウイルスの感染状況に応じた対応を迫られることが予想される。一部、委員会活動の位置付けとして、教育課程に関する内容でもあるが、学部間で「日常生活の指導」と「生活単元学習」と異なる形態で取り扱うことに対する意見が挙がっているので、単元名や単元計画・活動計画など、学部間で異なる根拠を明確にしておく必要があると考える。
- (8) **保健指導部**については、いずれの業務において、「達成」、「ほぼ達成」の高い評価であった。少数ではあるが、あまり達成されていないとして挙がっていた課題は、安全点検である。学校経営努力点（2）ーウと関連しており、安全点検の実施の在り方については共通理解が必要である。
- (9) **渉外部・分掌その他**では、それぞれの係において、高い評価を得ている。一心会・明伸会に関しては、評価が分かれているが、感染症の拡大により、会自体がなかったことを「達成されていない」と評価していることが考えられる。

Ⅲ その他

1 評価結果

	質問項目	結果			
		1 思う	2 まあまあ思う	3 あまり思わない	4 思わない
1 学校全体	ア 職員会議は計画的に実施され、適切な審議がなされている。	18 (72%)	5 (20%)	1 (4%)	1 (4%)
	イ 運営委員会では、必要な事項が十分に審議されている。 (運営対象者のみ)	13 (81.3%)	3 (18.8%)	0 (0%)	0 (0%)
	ウ カリ・マネ委員会では、必要な事項が十分に審議されている。(対象者のみ)	10 (76.9%)	3 (23.1%)	0 (0%)	0 (0%)
	エ 自分にとって公務上必要な情報が適切に伝達されている。	14 (56%)	8 (32%)	3 (12%)	0 (0%)
	オ 学校行事(年間、月)は、適切に組まれている。	11 (44%)	9 (36%)	4 (16%)	1 (4%)
	カ 学校の教育目標や重点目標について、具体的に説明できる。	3 (12%)	16 (64%)	6 (24%)	0 (0%)
	キ 学校の年間指導計画を活用して、計画的に指導や支援の充実を図っている。	10 (40%)	14 (56%)	0 (0%)	1 (4%)

	<p>ク 学校の教育課程全体で、組織的に児童生徒を育てていくように意識している。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>8</td> <td>32%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>16</td> <td>64%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1</td> <td>4%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	8	32%	2	16	64%	3	0	0%	4	1	4%
Category	Count	Percentage															
1	8	32%															
2	16	64%															
3	0	0%															
4	1	4%															
	<p>ケ 目指す教育活動のために、<u>学校全体で実施される会議等において積極的に発言するよう</u>にしている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>9</td> <td>36%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>12</td> <td>48%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>12%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1</td> <td>4%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	9	36%	2	12	48%	3	3	12%	4	1	4%
Category	Count	Percentage															
1	9	36%															
2	12	48%															
3	3	12%															
4	1	4%															
<p>2 学部・学級</p>	<p>ア 学部会は計画的に実施され、学部の運営は、工夫・改善されている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>13</td> <td>52%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>11</td> <td>44%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1</td> <td>4%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	13	52%	2	11	44%	3	0	0%	4	1	4%
	Category	Count	Percentage														
	1	13	52%														
	2	11	44%														
	3	0	0%														
	4	1	4%														
	<p>イ 学部内の仕事が公平（能力的・経験的）に分担されている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>6</td> <td>24%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>15</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2</td> <td>8%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	6	24%	2	15	60%	3	2	8%	4	2	8%
Category	Count	Percentage															
1	6	24%															
2	15	60%															
3	2	8%															
4	2	8%															
<p>ウ 学級のペア間で情報の連携が適切に行えている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>17</td> <td>68%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>7</td> <td>28%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1</td> <td>4%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	17	68%	2	7	28%	3	0	0%	4	1	4%	
Category	Count	Percentage															
1	17	68%															
2	7	28%															
3	0	0%															
4	1	4%															
<p>エ 学級事務等は公平（能力的・経験的）に分担されている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>9</td> <td>36%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>14</td> <td>56%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1</td> <td>4%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	9	36%	2	14	56%	3	1	4%	4	1	4%	
Category	Count	Percentage															
1	9	36%															
2	14	56%															
3	1	4%															
4	1	4%															
<p>オ 学級経営に係る仕事は工夫されている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>12</td> <td>48%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>11</td> <td>44%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	12	48%	2	11	44%	3	2	8%	4	0	0%	
Category	Count	Percentage															
1	12	48%															
2	11	44%															
3	2	8%															
4	0	0%															
<p>カ 同僚と共に、児童生徒の成長を伝え合い、喜びを共有している。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>19</td> <td>76%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>5</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1</td> <td>4%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	19	76%	2	5	20%	3	0	0%	4	1	4%	
Category	Count	Percentage															
1	19	76%															
2	5	20%															
3	0	0%															
4	1	4%															

3 授業	ア 授業ミーティングは効果的に活用されている。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>11</td><td>44%</td></tr> <tr><td>2</td><td>11</td><td>44%</td></tr> <tr><td>3</td><td>3</td><td>12%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	11	44%	2	11	44%	3	3	12%	4	0	0%
	Rating	Count	Percentage														
	1	11	44%														
2	11	44%															
3	3	12%															
4	0	0%															
イ 組織的に取り組む授業研究は、学校の課題解決に役立っている。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>15</td><td>60%</td></tr> <tr><td>2</td><td>8</td><td>32%</td></tr> <tr><td>3</td><td>1</td><td>4%</td></tr> <tr><td>4</td><td>1</td><td>4%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	15	60%	2	8	32%	3	1	4%	4	1	4%	
Rating	Count	Percentage															
1	15	60%															
2	8	32%															
3	1	4%															
4	1	4%															
ウ 思考力・判断力・表現力などの評価や実施に取り組んでいる。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>13</td><td>52%</td></tr> <tr><td>2</td><td>11</td><td>44%</td></tr> <tr><td>3</td><td>1</td><td>4%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	13	52%	2	11	44%	3	1	4%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage															
1	13	52%															
2	11	44%															
3	1	4%															
4	0	0%															
4 個人	ア <u>個人で自分なりにテーマをもち</u> 研究を進めている。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>8</td><td>32%</td></tr> <tr><td>2</td><td>10</td><td>40%</td></tr> <tr><td>3</td><td>7</td><td>28%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	8	32%	2	10	40%	3	7	28%	4	0	0%
	Rating	Count	Percentage														
	1	8	32%														
	2	10	40%														
3	7	28%															
4	0	0%															
イ 担当している部や係などの仕事は負担なく取り組んでいる。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>4</td><td>16%</td></tr> <tr><td>2</td><td>14</td><td>56%</td></tr> <tr><td>3</td><td>7</td><td>28%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	4	16%	2	14	56%	3	7	28%	4	0	0%	
Rating	Count	Percentage															
1	4	16%															
2	14	56%															
3	7	28%															
4	0	0%															
ウ 学習指導要領改訂など、教育施策の動向に関心をよせ、学ぶようにしている。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>10</td><td>40%</td></tr> <tr><td>2</td><td>11</td><td>44%</td></tr> <tr><td>3</td><td>3</td><td>12%</td></tr> <tr><td>4</td><td>1</td><td>4%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	10	40%	2	11	44%	3	3	12%	4	1	4%	
Rating	Count	Percentage															
1	10	40%															
2	11	44%															
3	3	12%															
4	1	4%															
エ 立場や役割に応じて、リーダーシップを發揮している。	<table border="1"> <tr><th>Rating</th><th>Count</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>1</td><td>7</td><td>28%</td></tr> <tr><td>2</td><td>13</td><td>52%</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>16%</td></tr> <tr><td>4</td><td>1</td><td>4%</td></tr> </table>	Rating	Count	Percentage	1	7	28%	2	13	52%	3	4	16%	4	1	4%	
Rating	Count	Percentage															
1	7	28%															
2	13	52%															
3	4	16%															
4	1	4%															

Ⅲ-2 考察(学校全体、学部、個人に関する内容)

1 学校全体

9項目中8項目において、8割以上の職員が「思う」「まあまあ思う」と評価している。項目カの「学校の教育目標や重点目標について、具体的に説明できる」は、約24%の職員が「あまり思わない」と評価している。常日頃から教育目標や重点目標を意識化できるような「〇〇宣言」のような表示があると意識できるのではないか。

2 学部・学級

6項目全ての評価項目において、80%以上の割合で「思う」「まあまあ思う」と評価している。それぞれの学部内、学級内での取組は、教員が互いに協力しあい、複数の教員で児童生徒の教育を行うチームティーチングのよさが学部・学級運営にも生かされていると考える。

3 授業

3項目すべての評価項目において、88%以上の高い割合で「思う」「まあまあ思う」と評価している。過去2か年の評価と異なる傾向があり、学校研究の取組は反映されやすい項目であったと考える。特にアの「授業ミーティングは効果的に活用されている」に関しては、昨年度「思う」と評価した職員が8%であったのに対し、今年度は44%の職員が「思う」と評価している。さらに、イの「組織的に取り組む授業研究は、学校の課題解決に役立っている」と「思う」と評価している職員は60%であった。今年度は、全体研究のテーマ子どもの深い学びの実現にむけての授業づくりであったため、授業研究も関連付けて評価がなされていると思われるが、今後も毎月の授業研究の日の継続的な取り組みは必要であると考え。

4 個人

昨年度約54%の職員が「ア 個人でテーマをもち研究を進めている」をあまり思わないと判断していたため、今年度は、評価項目の表記を改めて「個人で自分なりにテーマをもち研究を進めている」とした。それに対しては、約7割の教員が各自でテーマをもって研究を進めていたようである。附属学校の各教員は、実践と研究を推進できる人材であることを踏まえると、今後も各個人で深めたい研究テーマも大事にしたいと考える。今年度は、「エ 立場や役割に応じて、リーダーシップを発揮している」は、約4人に一人が「思う」、半数以上が「まあまあ思う」と捉えていた。本校が地域のニーズに応え続けるために、今後も様々な立場でリーダーシップを発揮できるような人材育成が必要である。

IV 保護者アンケート

1 評価結果

※4件法（A:達成，B:ほぼ達成，C:あまり達成されていない，D:達成されていない）でアンケートを実施し，Aから順に4点，3点，2点，1点と得点化し，それぞれ平均値を算出した。

	質問項目	全体平均		
		R 1	R 2	R 3
教育活動	① 学校・学部・学級の教育方針や教育目標に添った取組がなされている。	3.7	3.7	3.7
	② 子どもたちの実態や課題に応じた授業が行われている。	3.6	3.7	3.6
	③ 感染症予防に努め，子どもたちに応じた特色ある学校・学部行事が行われている。	3.7	3.6	3.8
	④ 連絡帳や学級通信等は，学校や授業での取組をよく伝えてある。	3.8	3.6	3.8
	⑤ 通知表「あゆみ」は見やすく，子どもの成長や課題をよく伝えてある。	3.7	3.7	3.7
	⑥ 個別の教育支援計画による教育方針は，分かりやすい。	3.6	3.7	3.7
	個別の指導計画による具体的な取組は，分かりやすい。	3.5		
	⑦ 教師は，子どもをよく理解し，真剣に対応している。	3.8	3.7	3.8
	⑧ 教師は，保護者の悩みや相談に親身に対応している。	3.8	3.7	3.8
	⑨ 教師の対応は，丁寧で適切である（子どもとの関わりなど）。	3.8	3.8	3.9
教育環境	⑩ 充実した教育活動を行う施設や設備が整っている。	3.0	3.2	3.3
	⑪ 校舎や教室などの清掃や片付けが行き届いている。	3.2	3.4	3.5
	⑫ 危険箇所などへの対応，安全配慮がなされている。	3.2	3.5	3.5
連携	⑬ 学校は，家庭と子どもの目標に協力して取り組んでいる。	3.6	3.5	3.6
	⑭ 学校は，家庭と日常的に連絡を取り合っている。	3.6	3.7	3.8
	⑮ 学校は，保護者の研修（進路に関する勉強会等）に対して協力を行っている。	3.6	3.5	3.7
	⑯ 学校は，的確な支援を実施するために関わる福祉，医療，労働等の関係機関と連携を取り，必要な情報を保護者に提示している。	3.5	3.5	3.5
その他	⑰ 感染症予防に努め，PTA活動は，PTA会員の意思を反映し，計画的に行われている。	3.2	3.5	3.7
	⑱ 子どもは，毎日楽しく登校している。	3.8	3.8	3.8
	⑲ 子どもたちの成長を感じている。	3.7	3.7	3.9

3 考察（保護者アンケートに関する内容）

1 教育活動においては、全ての項目において、4点満点の3.6～3.8の高い評価を得ている。しかし、わずかではあるが、「②子どもたちの実態や課題に応じた授業が行われている。」の項目に関しては、「C あまり達成されていない」と評価している保護者がおり、全体としてやや評価が下がっている。一方、「④通知表の「あゆみ」は見やすく子どもの成長や課題をよく伝えてある。」は、全ての保護者が「A：達成、B ほぼ達成」と評価している。自由記述には、「先の見通しをもちたいので具体的な目標設定を示して欲しい。」「目標が実際にどのようなようになっているのか分かりにくい。」などから、保護者は、長期的な視点での目標提示やねらいを明確にした授業内容に関する具体的な説明を求めていることが伺える。これまで同様に保護者の意見を真摯に受けとめつつ、参観日や夏期休業中や年度末の教育相談等を活用しながら対応していきたいと考える。

※昨年度、同様に質問項目として挙げられていた「個別の指導計画による具体的な取組は分かりやすい」の項目は、今年度書式検討を試みており、経過途中であり保護者に具体的に示すまでは至っていないため、項目からは一旦外している。

2 教育環境においては、例年、他の項目と比較すると低い評価となっていたが、今年度は3つの項目すべてにおいて、上昇傾向にある。徐々にではあるが、予算で改善できた部分があり、評価につながったと考える。今後も、保護者の理解をいただきながら児童生徒の教育に当たっていきたい。

3 連携においては、学校と家庭や地域との連携は、4点満点中3.5以上の評価を得ている。項目⑮⑯に関しては、昨年度の評価を踏まえ、具体的にどの場面のことを評価するのか分かりやすい表記にしたことで、適切な評価につながったと考える。

4 その他に関しては、「⑰感染症予防に努め、PTA 活動は、PTA 会員の意思を反映し、計画的に行われている」が一昨年度から比較して+0.5であった。年々、PTA 執行部を中心に改善点等工夫しながら、誰もが参加しやすい活動内容に努めた結果だと考える。今後も改善できることは改善し、保護者と連携取りながら児童生徒の教育にあたっていきたい。